

# Forest通信 令和6年 3

No.421

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター

巻頭  
Photo

高尾山のいきものたち

## ニホンアナグマ (イタチ科)

目の周りが黒い愛らしい動物。短い脚、ずんぐりした体形で、動作もたどたどしく、パンダのように愛嬌がある。頭胴長が45～70cmで、全体的に暗い黄薄茶色をし、胸から肢にかけて黒褐色をしている。

里山から亜高山の森林に棲み、地面にトンネルを掘って巣穴として生活している。穴を掘るため、前足は幅が広く爪が太くて湾曲し、穴で過ごすため、臭覚と聴覚は鋭いが、視覚は弱い。夜行性と言われるが、昼も活動する。食性は雑食性で、昆虫、カエル、果物やドングリ、キノコなどを食べ、特にミミズを好む。巣穴から出て歩きながら地面を探り、餌を探す。冬は、巣穴内で冬眠する。人で賑わう高尾の森でも、どこかでひっそりと暮らしている。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



## 驚き桃の木 高尾の記

NO.16



### 「寒いからもうちょっと待って!？」

前月号の続きです。わが家の庭に置いたキジョランの鉢植えにいつの間にかアサギマダラの幼虫が住み着き、外では寒かろうと暮れに鉢ごとサンルームに入れました。その後1月中旬ごろまでに6頭が蛹になりました。

ある図鑑に羽化まで20日程度と書いてあったので、2月に入ってから今は今かと蝶が出てくるのを楽しみに待っていたのですが、蛹化から2カ月近くたつ蛹も一向に羽化の兆しが見えません。別の本には春先まで100日近く蛹の状態で過ごし、少し暖かくなってきたら羽化したとの報告も。サンルームにはヒーターを入れたカメの水槽が置いてあり外よりはいくぶん温度が高いのですが、アサギマダラは「まだ寒すぎるなあ～」としっかり感知しているのでしょうか。小さな昆虫の能力に驚かばかりです。

蛹になってからも寄生バエや寒さが続くことによる蛹状態の長期化などにより羽化する前に死んでしまう個体も多いとか。野外では鳥などに食べられてしまう危険も大ですが、その点ではサンルームの中は安心! サッシにぶらさがった蛹もカメの口が届かない高さです。さて、無事羽化できるでしょうか?(枝)



## 出前森林教室

### 多摩市立 連光寺小学校

1月30日(火)、31日(水)に多摩市立連光寺小学校5年生67名を対象に、学校の裏山にある多摩森林科学園の実験林において出前森林教室炭焼き体験を実施しました。

今年も二日間にわたり窯作りから窯出しまでを体験しました。

一日目は6班に分かれて皆で力を合わせて窯作りです。予めテープで目印をつけていた場所をスコップや鍬で材料が入るだけの穴を掘り、ブロックやレンガ等で焚口や煙突を作り、昨年上級生が作っておくれた割竹を窯の中にきれいに敷詰め、隙間を落ち葉で一杯にし踏み固め、トタン板で覆った上に土をかけて伏焼釜が完成です。そして焚口に置き火して団扇で扇ぎ熱風を窯の中に送り込み、煙の色を見ながら窯に送る熱風を調整します。

二日目はいよいよ窯出しで、チャンと炭になっているかな？まさか灰にはなっていないよな・・・とハラハラドキドキです。土やトタン板を取り除き落ち葉を取り除くと七色に輝く竹炭が姿を現します。「わーキレイ!」「折らないようにね!」といった声があちこちから聞こえてきて、子供たちの歓声がこだましました。

二日に渡り穴を掘ったり土を運んだり団扇で扇いだりと、皆で力を合わせ作り上げた竹炭を手にも輝かせ満面の笑みを浮かべ満足そうでした。(瀬)



## 出前森林教室

### 八王子市立 上川口小学校

2月15日(木)と16日(金)の2日間、八王子市立上川口小学校5年生の森林教室を行いました。

1日目は、学校の裏山に設置してある2つの炭焼き窯を使った炭焼き及び半割のドラム缶を利用した花炭づくり体験並びに教室での森林学習を実施しました。今年度の5年生は6名と児童が少ないため、フォレストサポートスタッフ3名にも応援をお願いして実施しました。当日は、春本番の陽気で気温が上がり、団扇で熱風を送り込む作業に苦労していましたが、交代しながら団扇を仰ぐこと30分~40分程度で煙突からもくもくと勢いよく煙が出始めひと安心。しばらく煙の様子を観察してから場所を教室に移し、森林の働き等について学習を行い午前中は終了。午後は、花炭づくりを体験し、最後に窯閉めを行い終了の予定でしたが、窯締めにはやや早かったため、窯締めの方法について説明し1日目を終了しました。

2日目は窯出しです。焼き上がりを心配しながら窯出しをはじめると、これまでに実施した炭焼きの中で1、2を争うような出来あがりやで、児童たちは「すごい。こんなにたくさん炭ができるとは思わなかった」と笑顔で窯出しを終え、用意した段ボール箱に丁寧に収めていました。児童たちは2日間の森林教室で、地球温暖化防止や森林の働き等について学習し、また、なかなか体験することのできない炭焼きを行ったことで、自然と人のつながりや環境問題について様々なことを感じてくれたようでした。(谷)



# 公募イベント 「炭焼き体験で学び楽しむ」

2月10日（土）、ほどよく日差しが差し込む天気の中で、「再生可能な燃料「炭」を作ろう！」をテーマに、一般公募による炭焼き体験を実施しました。

参加者は小学生からシニア層まで幅広い年齢層の17名のほかボランティア（フォレストサポートスタッフ）も加わりました。参加のきっかけは、「炭ができる過程を知りたかった」「山の暮らしに関心があった」「山での営みを学ぶため」「興味があった」などがありました。木材利用を進める中で炭についても関心を寄せていただくことはうれしいことです。

今回は竹を材料として伏せ焼き窯方式で行いました。参加者は、あらかじめスタッフが掘った穴の中に丁寧に竹材を積み重ねます。その後、煙突を入れる角度、穴に枯れ葉を詰め込む量の調整、土の埋め戻し方、火の仰ぎ方など炭を作るためには微妙な調整が必要ですが、スタッフがアドバイスしながら行いました。

また、炭を焼く間には「縄文式火起こし体験」と称する火起こし体験をしました。木と木をこすり合わせて摩擦により火を起こす体験は、一見簡単そうに見えて実はそうではないことを知った参加者を夢中にさせていました。私たちはいかに便利な世の中に居ることを学べた瞬間だったのではないのでしょうか。

今回の炭焼き体験は一日限りのため完成した竹炭を掘り出すことはできませんが、15分から20分程度ででき上がる花炭の体験をしてもらいました。原料には、まつぼっくり、どんぐりなど思い思いの木の実を試し、完成した作品を大事に包んで持ち帰っていただきました。

皆さんからは、「とても楽しかった」「いろいろな体験ができた」「炭焼きの過程が見られてよかった」などの感想をいただきました。現在、炭の利用は少なくなりましたが、生活用品の原料としても見直されつつあり私たちの生活に役立てられています。この経験を通じて炭の効果や役割を改めて見直していただければ幸いです。（久）



（竹材を窯に詰め込む作業）



（火で蒸す作業）



（窯に土を被せる作業）



（完成した花炭）

# 2024年度 森林カレッジ 受講生募集

年3回参加いただきます。  
それぞれの季節を通じて森林について学習&実習をします。

**応募は4月19日(金)まで**

↓↓ 応募はこちらのサイトから ↓↓

公式ホームページ  
主催イベント  
詳細情報→



1



日程 令和6年5月18日(土)

内容 講義「森林の見方」

体験 森林散策

講師 元日本森林学会会長

桜井 尚武 氏



2

日程 令和6年7月20(土)

内容 講義(テーマ未定)

体験 草刈り作業など

講師 (株)モリアゲ代表

長野 麻子 氏



3



日程 令和6年12月14日(土)

内容 講義「森林の恵みと共に

～炭焼き、そして森林の香り～」

体験 炭焼き作業

講師 東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏



## 編集後記

江東区の木場公園横の川沿いにある早咲きの寒緋桜、河津桜が見ごろとなっています。

高尾も日に日に寒さが和らぎ、春の訪れが近いと感じられる今日この頃です。



ミツマタ

## Forest通信 NO.421

発行：林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先  
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 042-663-6689

E-mail: ks\_takao\_postmaster@maff.go.jp

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>



国民の森林・緑を守り  
持続可能な社会を実現